

令和2年度第3回狭山市スポーツ推進審議会（書面開催）会議結果

令和3年3月16日（火）に開催を予定しておりました令和2年度第3回狭山市スポーツ推進審議会は、新型コロナウイルス感染症に対応した緊急事態宣言の期間延長を受け、書面での開催となりました。

期間 令和3年3月11日（木） 書面による審議依頼
（令和3年3月29日（月） 回答期限）

議題

- （1）令和2年度社会体育関連事業実施状況について
- （2）令和3年度社会体育関連事業計画（案）について

回答委員： 池森会長、小澤副会長、木谷委員、新井（勝）委員、伊藤委員、鈴木委員、星委員、村川委員、八重樫委員

議 題

- （1）令和2年度社会体育関連事業実施状況について

【書面での意見】

- ・予期せぬコロナ禍の影響で半数以上の教室が中止となり、また開催された教室でも新型コロナウイルス感染防止対策をしながらとこれまでにない苦労があったと思う。
- ・令和2年度は今まで経験したことのない新型コロナウイルスによる緊急事態宣言。ほとんどが家庭内での生活で前半の教室・行事の中止はやむを得ないことだった。後半は感染予防対策を行いながら徐々に再開できたことは良かったと思う。
- ・コロナ禍で事業実施が中止の多い一年。長い自粛生活で体力、気力の低下が懸念される中、実施できた事業への参加人数が思ったより多く良かった。事業の準備、会場ガイドラインの遵守、感染有無の心配等大変な苦労の一年だったと思う。
- ・令和2年度は、4月7日の緊急事態宣言発令に始まり、多くの各事業や教室が延期・中止となったが、市民の感染防止を考えると致し方なし、正しい判断であったと思う。
- ・コロナ禍の影響により予定していた事業が行えなかったことはとても残念。剣道連盟に所属しているが、剣道教室が10月だったため、開催することができた。
- ・コロナ禍においても数少ない事業展開で実績を上げており、推進した市職員、指導にあられた方々に敬意を表す。これからも今までどおりの進め方は望めないと思う。感染症対策を講じた今回の貴重な経験は次に活かせる。中止されたスポーツ教室は残念だが、春休みを使って「親子ボウリング」、西武文理大学指導の「ラクロス体験」に申し込みされた

方々は楽しみにしていると思う。

- ・コロナ禍で実施の難しい状況で、中止の事業も多く残念だが、その中でも工夫して実施したことは評価される。

議 題

(2) 令和3年度社会体育関連事業計画(案)について

【書面での意見】

- ・新規の教室は、子ども達を対象としたもの、アンケートの結果から取り入れたもの、マスク生活から考えられたもの、と工夫が見られて大変良いと思う。全ての事業が開催されることを願う。
- ・今年度は、昨年後半にしっかり感染予防対策を行いながら再開できたように、参加者が自覚を持って対応できれば昨年程の中止にはならないことと思う。“with マスクで楽しめる軽スポーツ”など、今の状況ならではの企画等、是非成功させたい事業だと思う。まだまだ不安な日々だが、少しでもスポーツを楽しみ、健康に過ごせる年になることを願う。
- ・まだまだ続くコロナ禍で、計画した全ての事業が実施されることを願っている。また、with コロナ時代の体育事業の実施、展開に期待している。
- ・全て予定どおりできることを願う。
- ・緊急事態宣言が解除されリバウンドが懸念されるが、各事業については、ガイドラインに従い4月より実施してほしい。
- ・少しでも活動ができるよう応援したいと思っている。
- ・新規事業の教室に「with マスクで楽しめる軽スポーツ」種目に「フライングディスク」が組まれているが、募集等には障害者の方も参加できること、と。開催にあたっては、(誰もが)参加可能な土・日曜日を希望する。全国障害者スポーツ大会種目にもなっており、「ソーシャルディスタンス・スポーツ」として取り組める。「アクティブチャイルドプログラム」の指導者講習も望むところである。
- ・学校体育施設開放事業の使用条件について、運営委員会の頻度は適切であるか？
2～3カ月に一度の開催では、運営に支障をきたすのか？

→ (事務局の回答)

運営委員会については、学校によって毎月異なる「利用のできない日」や「利用上の注意等」を利用団体が直接確認する目的以外に、児童・生徒による通常の体育館清掃では行き届かない清掃箇所を利用団体(大人)が清掃することで、双方で施設の環境美化に努めることを目的の一つとし、毎月開催することとしております。

- ・コロナ対策への負担が多くなるが、スポーツ文化の灯を消さないように各種事業の実施の

可能性を模索してほしい。ただし、変異株では若い方への感染も多いとされる中で、状況に応じては中止の判断も必要となる場合があると考え。事業の継続の大切さも理解しているが、社会的な健康を維持することを優先することはそれ以上に重要なことになると思う。

大学においても、昨年から大規模に IT への対応が進んでいる。この機を活かして各事業における IT の導入の可能性を探ってみてはいかがか。

地元のスポーツへの関心を高め、スポーツ文化への意識を肯定し、行動に結びつける下地として、情報発信をそこから行動へ繋がる入口の整備、コミュニティの育成と横の繋がりが必要と感じている。

【委員より参考】

昨年、新聞でこのような見出しを見ました。

“この「体力格差」家庭の収入が一因に”

こんな見出しにビックリしました。新聞では“収入が少ない家庭の子どもほど体力がない”そんなスポーツ格差があり、体力が高い子は何でも話せる友達がいる。体力の低い子は孤独を感じている…

それは全てではないですが、スポーツ科学の研究テーマになるんだ…と思いました。

昨年の剣道教室に参加して、このスポーツの特異性を感じました。団体スポーツではないので、周りとは馴染めない性格でも、ちょっとした障害がある子でも挑戦できると思います。

少しでも“体力格差”がおきないように活動したいと思っています。

会議資料

- ・令和2年度社会体育関連事業実施状況
- ・令和3年度社会体育関連事業計画(案)